

防火策圖解附錄

人

洋学文庫
文庫 8
C 169
2





附録

地震劇風災害豫防法圖説

宇宙の間災害一ありて止らば地震亦そ一小居て其

微小なるハ聊恐るにたゞと維其劇烈ある小ぶて

る屋舎を壊ち人命を傷て是小強ふ必火を以

て以實ふ天地の一大災なり然れども人々故め

其緩劇の前兆を知者歟一西洋人の説小地震

の發せんとする時小當て磁石の吸收力を脱する由と



方火策圖解 附録

説トクて因ヨクて鉄器テツキを吸付スイツクさせ時計トキの如ゴトき目メざま
 の仕掛シカケを以モて試コトむる時トキも地表ゼンの前兆ゼンを察サる小
 足タビる由ヨシりれども將マサ小地震コシズミの發ツクせんともるの時トキ刻コト小
 至キて察サるの如ゴトくそ緩劇クワンゲツもすかゞニケト進出シユツはべた
 暇ヒマもなされど則スレバち何ナニの益エキもあらんや又地震シズミの
 三十日サンジュウニチ前マエより井中イナカの水増ミヅ飽立アツ由ヨシあると未イマだ略シカと
 試シ驗ケンしる事コトも非アラび又井水イナカ係ケ小地震コシズミを發ツクする
 由ヨシりれども是亦ココロも場所バシヨを察サる事コトも唯タダ大

地震シズミ既スデ小發コツクしたる時トキも井水イナカの増漏マシユも入イ實ジツ事コトある
 ども予コノ前兆ゼンを察サる小足タビり又將マサ小大地震コシズミを察サせん
 ともる如ゴトく前マエ小兩氣コノを帶オビく一イチか小曇クモり密雲ヒツクシを以モて雨
 降フる時トキに必カナラず劇烈ゲツリョウの地震シズミある由ヨシあると亦モ其時トキ小雷カミナリ
 あらざる否イナや行程オウゲイ察サる由ヨシあるは是亦ココロも其時トキ小雷カミナリ
 ありしとつとまの事コトも地震シズミ豫兆ヨゼウの為タメにも聊イッパカもある
 べし其外ソノ異人相墨色イニシキ即スレバ電雷デンライ並ナラびさき雷カミナリいづれ
 も空論クウロンありて察サる不足ブツクるべし其の如ゴトく凡タダ劇風ゲツフウ大雨オウウ大

雷猛烈モウレツの地震シツもハ實シツ小天地ムキウの變動ヘンドウを以て
 人智シチチを以て其前兆リョウチを了リョウチ知チる事コトありし處トコロに
 然シカる時トキ々トク劇烈ゲキレツの地震シツ大オホなりし處トコロに
 豫防ヨボウも緊要キンヤウの術ジュツを他タに唯トク土藏ドク居宅イタクの造作ゾウサツ格カク
 外ガイ望ボウを以てヨ小なる小なるの地震シツ大オホ地震シツハ元來ゲンライありし
 罕ハあるものごとく百年二百年小なるや否ナシや唯トク火災カサイの
 年ネン々トク屢有ルウユウの抽ヒキりて不時フジ小發コハツするがれども人ヒト々トク家作カサツ
 小永久コエウキウを謀ハカらん徒イタラ小寒暑コカンショ雨雪ウツユキを凌シぐまづの事コト

小思コシ小土藏コドクハ火災カサイを防フくまづる事コト足りし心ココロ列レツ
 東都トウトもどハ家宅カサツの建方ケンフを粗畧ソリヤクをて殊更コトサラシ時々の火カ
 災サイ小諸職人コシヨクの作料サクレウ諸材木シヨクの座段ザダン累年ルイネン言價ゴンカ小進コシン
 むが故コト小列侯コレウの富トミと雖シテモ普フ徒レ經營ケイエイ其精細セイサイを尋マシぎり
 事コトありしや市中シチュウの商家シヤカ小至コシても貧富ヒンフとも爰ココ
 小心コシンを用ヨウひ凡オホの足積ミツメ一坪ヒトツボ何拾分ナニシウブンと定免テイメン或ナラバシハ
 入札イリサツ小致コシ下屯ゲツンの方カタ落札ヲチサツと扱ナゲ小致コシ積負ツケフミ普フ
 積ツケ小なる事コト世上セウジヤウの風習フウシヨウがれども職人シヨクジンも亦ナラバシ早業ハヤワザを

防火策圖解

附録

三

皆一として大なる穴小細き不ぞをきくは諸材本も是
 小准極く下並の粗材を用小徒小奸利を専ら小
 なる事取既ニ當八月廿五日の大風小ハ新規建の家
 作小影く吹倒され傷死怪家人救多き由後負
 普後世の獎習とありよて建地職人小望を
 小製造なる事を手馴れ或も更小心得ざる職人も
 出ふ人々を職人不委任くは唯下並ニ揚るを考とる
 う故小右等の地震大風の變災を脱する事あるは中

小も望志小經營せむと欲せれども作料諸材の
 言便小恐も止事を得任來りの粗工小委任する
 も多し其の事天地の氣化積年の久しき自然
 中小石炭火脉漸く溜徹し何時小ハ何根ある劇
 甚の天變を發するやもあらずは殊小近年は諸
 國とも屢々大地震あるを五年七年の久しきを
 きくは今年明年の内小ハ再發せしことハ定め難し然
 り故安坐して粗宅小住する事危き事實小大砲の

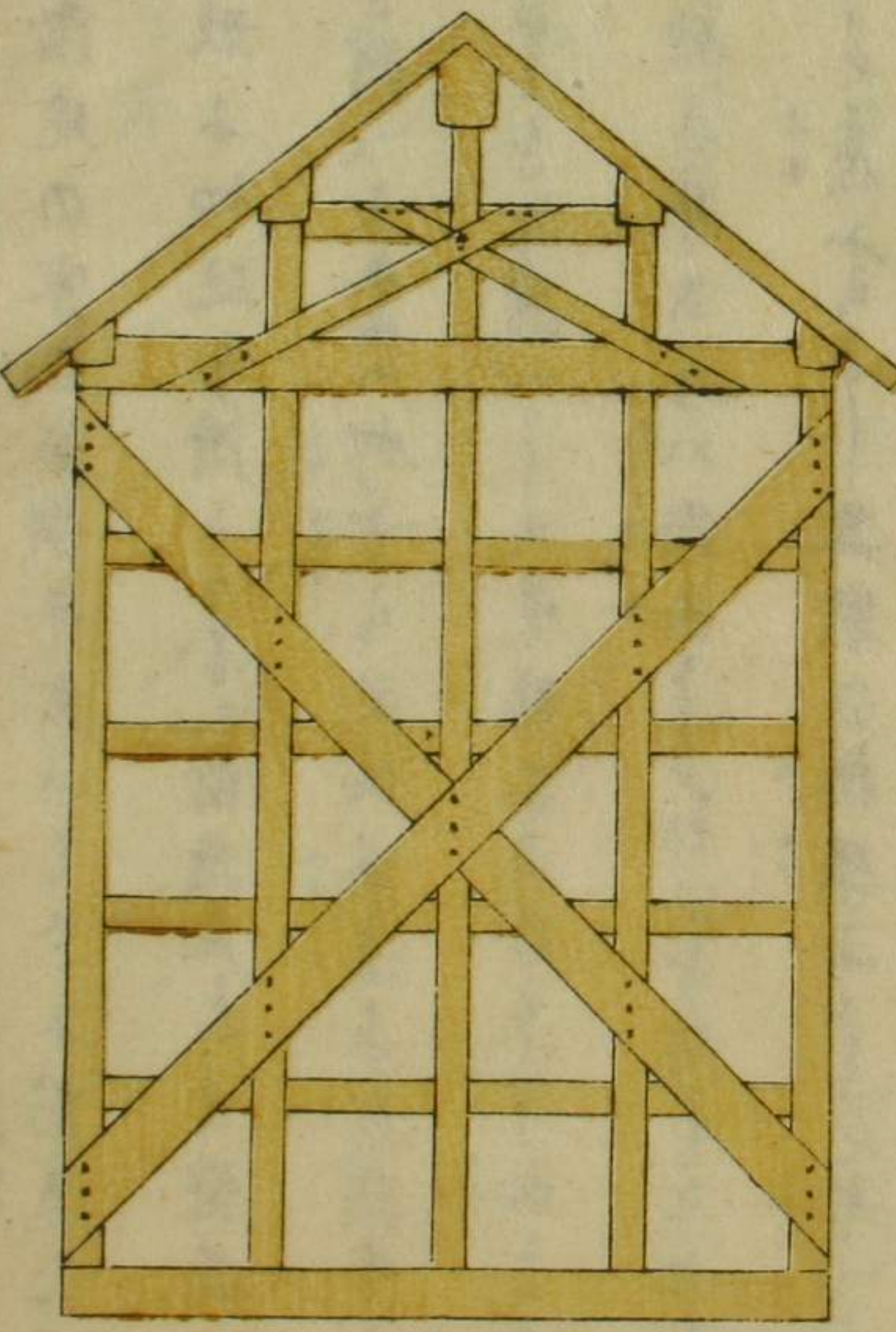
的前アキゼン小立巖タチイシ牆シマの下小卧フト以ハタが如ニ將又日タ月ツキも
 不時フトマの小地震クワカクも其劇易ゲキイの程ホト合ヒぬ如ニきざれハ微
 細サイの震動シンドウ小丸キウク驚キウク惧クして平常安心ヘイジョウアンシンあるべし予是
 小於オイて地震劇風ゲキフウの大災オホノシを豫防ヨダフするの手段シユダシを工夫
 して諸人シヨトと俱トモ小洪福コウフクを同トモせんと欲ホシは然シカも繁
 工大費コウダイヒの仕法シホフよくハ或ハ力の及オキびざるも何ナニも放ハす
 予ボクが如ニ極貧キョクヒンの者モノも力を致ツケし易ヤスく予ボクが年来
 實ジツ驗ケンする事コトありて用費ヨウヒ至輕シキ密ヒツをある事コト磐石バンシキの如ニ
モイリカルク

要法ヨウホフを圖解ズカイしして防火策イチの後ノチ附録フロクし以て世
 小播ハンを覽者ミルモノ宜ヨシしく熟考ジュカウをシと云イフ
 ○家作ケサク并ニ土藏ツチザ建タテ地チを格カク外ガイ堅ケン固コ小コおさんと欲ホシし小
 家ケ小大材コオホシを用ヨウ小コ或シもほぞ費ヒ者モノのさサ口ク廉レン重ジュウ小
 製造セイゾウせんともる小諸材コシヨサイ工料コウリョウ莫大バクダイありて自力ジリキ小不コフ及
 人も多オホクくシべし又大柱オホハシラ良材ヨキキを撰エラび用ヨウゆるとも中
 職人シヨクジン小於コて堅固ケンコ小製作コサクゾウする事コトを心ココロぬざるもの
 も何ナニも出デる時トキハ益エキの拘入クウイを費ツイヤをのノ放ハす

先建地^{ツタチ}を仕来の通入札^{トウリ}普^ツ待^チし^テ成丈^{ナヒ}↑直^{タテ}小^コ製造^{ツケ}壁^{カベ}を附^{ツケ}て後小^コ是^シを壁^{カベ}を小^コを^トへ^テ仕法^{シホウ}を則^{モト}ち土^{ツチ}藏^{クラ}の深^{フカ}き土^{ツチ}戸^ドの骨^{ホネ}を製造^{ツケ}する^ルが如^{ごと}き心^{ココロ}切^キりて厚^{アタリ}サ一^{ヒト}寸^{スネ}幅^{ワタリ}八^{ヤチ}寸^{スネ}の板^{イタ}割^{ワリ}を以^{もつ}て家^{ウチ}の左^{ヒダリ}右^{ミダリ}前^{マエ}後^{ノチ}上^{ウヘ}下^{シモ}とも各^{オノオノ}柱^{スズメ}小^コ駮^{シカ}と切^{キリ}込^{コミ}左^{ヒダリ}の角^{カド}の如^{ごと}く筋^{スジ}遠^{カヒ}十^{ジュウ}文字^{モンジ}形^{ナリ}小^コ壁^{カベ}くお^お込^こ三^{サン}百^{ヒャク}目^メ以^{もつ}上^ノの大^{オホ}釘^{ナギ}を以^{もつ}て柱^{スズメ}毎^ノ小^コ各^{オノオノ}二本^{ニホン}宛^ツ最^マ重^{オモシ}小^コお^お消^シべ^いる^ル如^{ごと}く此^{ココ}を^ト時^{トキ}々^々ニ^ニ階^{カイ}建^{ダテ}尾^ビ葺^{フキ}小^コて^ても其^{ソノ}壁^{カベ}を^トり^りる^ル半^{ハン}盤^{バン}石^{シヤク}の如^{ごと}く如^{ごと}く何^{ナニ}も^モ劇^{クツ}

防火策圖解 附録 六

第一圖



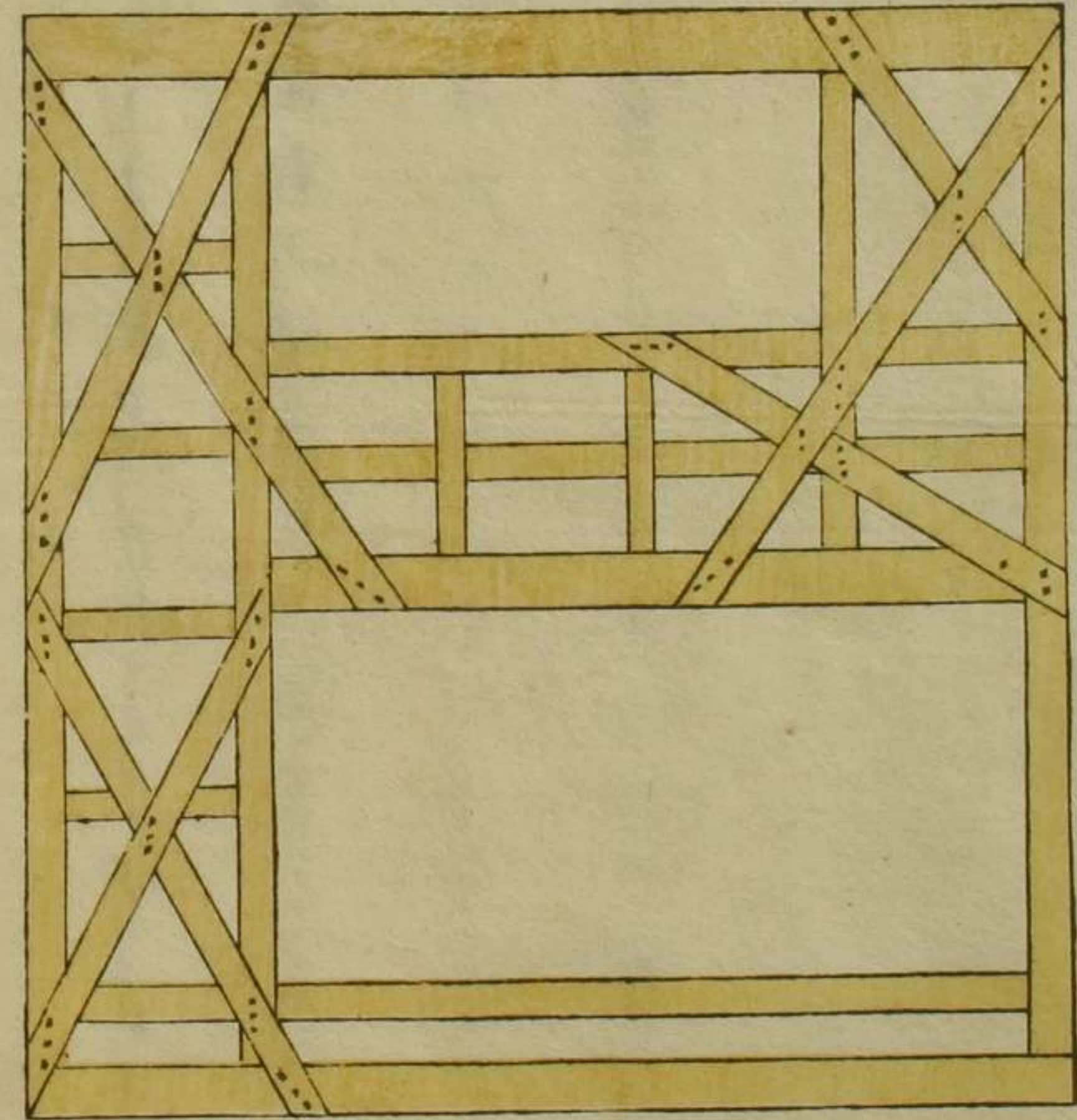
甚^{オモシ}の地震^{チク}猛烈^{マウ}の大^{オホ}風^{カゼ}小^コも聊^{オウ}々^々曲^{カマ}る^ルの患^{ウヅリ}を^ト荒^{アラ}増^{マシ}左^{ヒダリ}の角^{カド}を以^{もつ}て了^マす^ル如^{ごと}く^ト筋^{スジ}遠^{カヒ}切^{キリ}込^{コミ}方^{カタ}の柱^{スズメ}探^{サシ}サ^サト^トル^ル七^{シチ}ト^ト切^{キリ}こ^こ板^{イタ}割^{ワリ}下^{シモ}切^{キリ}こ^こ

大々二階建の家左右横平あると下小筋遠ニヤ不
 十文字形小切込打附る号之前後左大壁花ニ
 あるを附べし其ハ何方も此筋遠を打附る上
 面ツラ不あるを打附べし又其場不あり外面ソトツラよそ
 筋遠打附る事あるハ内面ウチより切込打附る上面を
 板を免るオホ後あるより其家の模様モヨフより考べし
 ○町並表写口を筋遠を打附べし其家まきうら
 其まとも二階建なら鴨居カモイの上と二階写戸の

敷居シキイの写りアキ十文字形小切込打附る若平家ヒラヤ
 あり鴨居の上より枕サシの揚カの写りアキ十文字形
 小切込べし若左右小壁或は戸袋トビあるハ必カナ十
 文字形小筋遠切込打附る是亦外面ソトツラより打附る
 其ハ内面ウチツラより打附る仕掛荒堵左の号を以て了シタ
 知事チジ

第二号

方丈景園屏

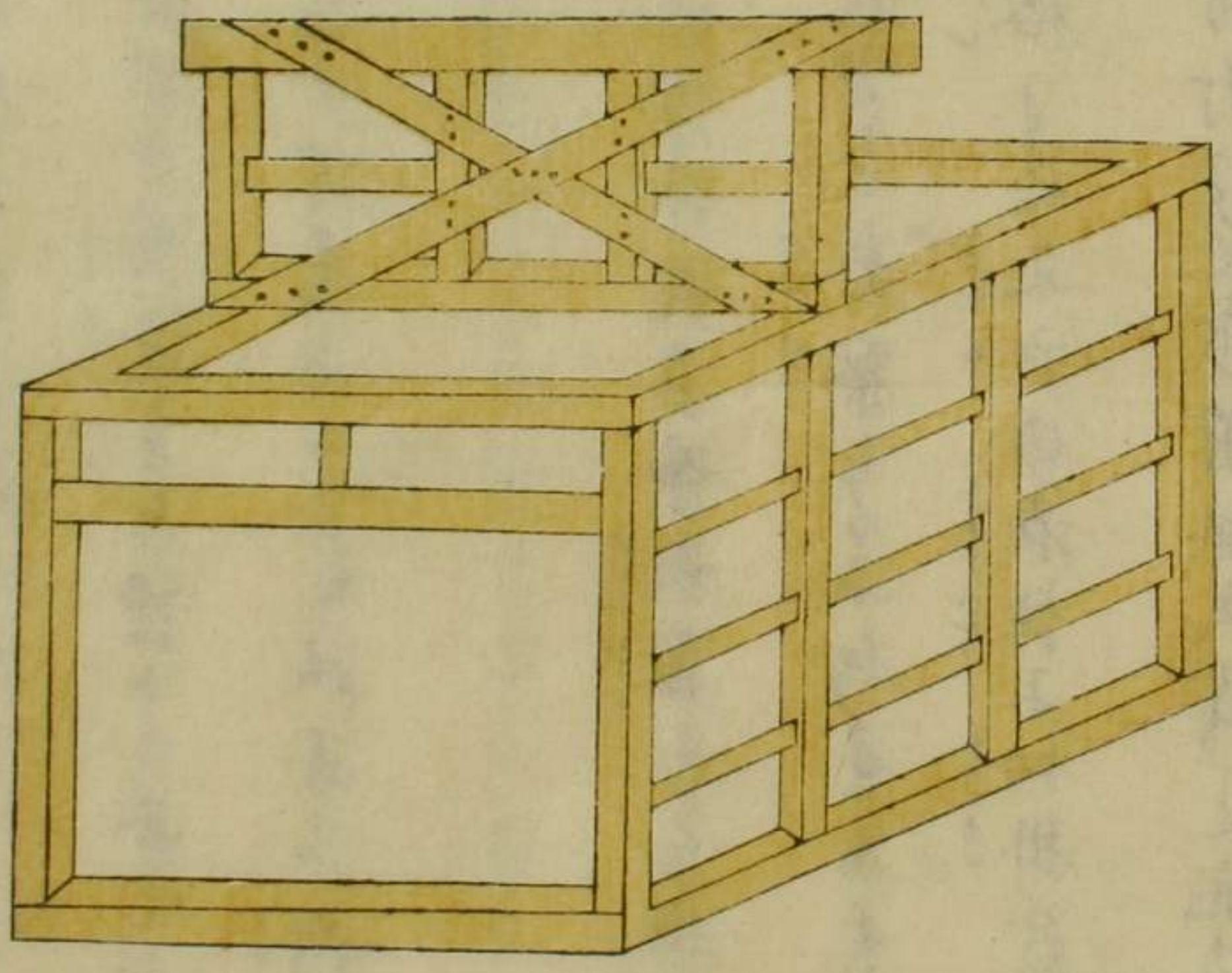


右房ハ表窓口ニ窓半の二階建^{ダテ}トク表柱三本建^{オモテバシラ}三尺
 の戸袋^{トゾロ}を付^{マド}窓口ニ窓の系柱^{ヒラナシ}を以て二階を左太
 小戸袋を付^{マド}窓戸九尺小^{タチイユ}の建^{スビカヒ}家小筋遠を切込
 ち附^{モシヒサレ}る房之若庇を附^{ソト}る小房の如き筋遠を切附
 て後二階窓戸下も附^{ソト}る尤筋遠外面より切附
 さま^{ナシ}ハ内面^{ウチ}より切^{カチ}べ^{カチ}又裏口花^{カハ}横手^{カシガ}も^{カシガ}も出
 入の口小窓戸ある時を皆此房を照^{テラ}る考^{カシガ}へて切
 附^{ナシ}又坐敷^{ザシキ}中仕切^{ナチキ}の壁^{カベ}も^{カベ}も是亦此房小^{ナシ}窓

て十文字形小おべ〜九筋遠をおうるまゝ外
面お
らちあつこいよく隠〜内面がらうの板とめよくオホ覆小
かくま〜

○九棟本ムナギの下と梁カの上を塚柱ツカビラを建横貫ヨコスキを差徹サシト
〜する率何方も同じ造り方あまども尾葺お〜
列〜て重荷オモがねバ大北辰の葺ハあ〜危〜故小左
の葺の如く塚柱シカと切込筋遠をおお〜

第三号



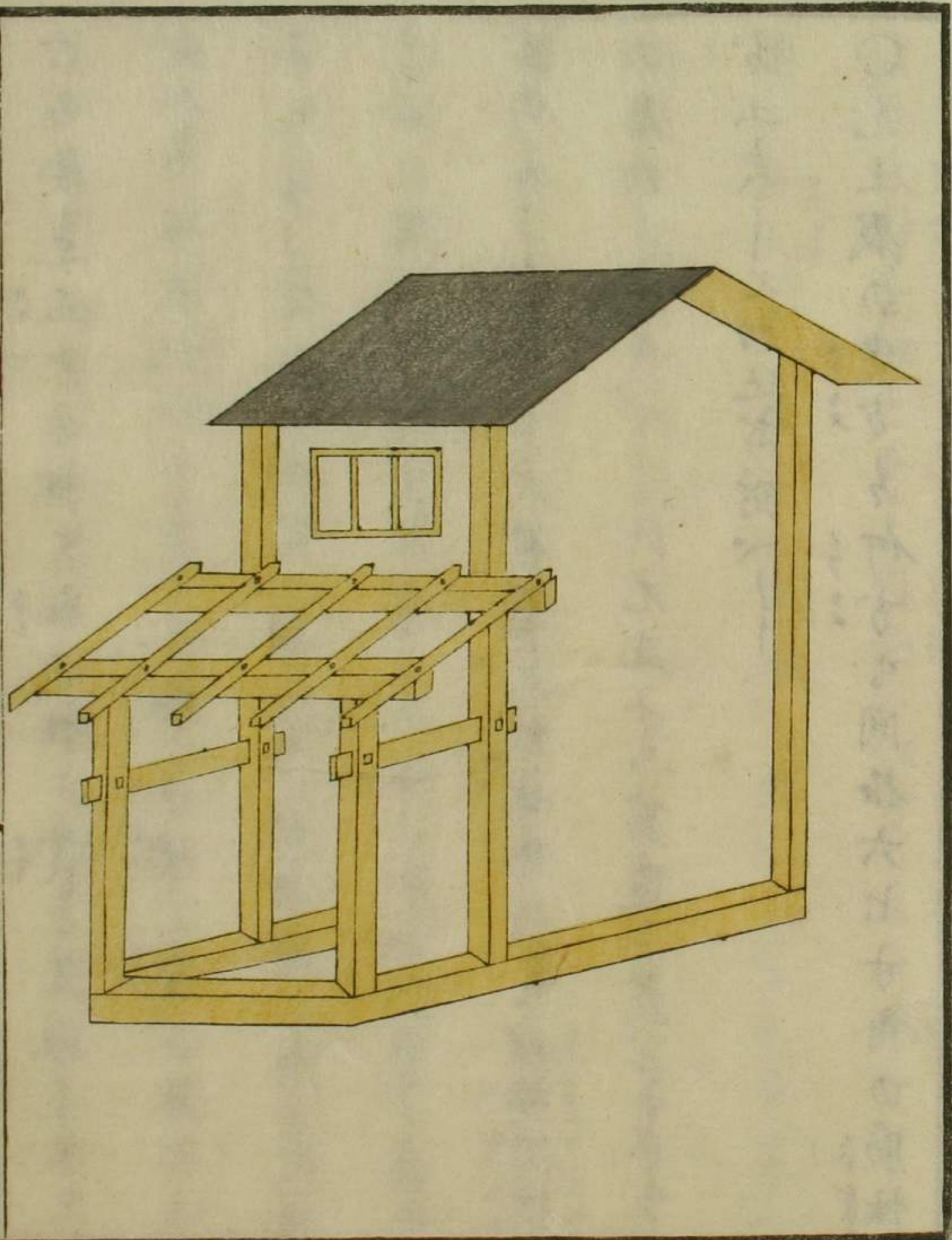
右邊り方口九尺の建家チム子シタは毛屋根棟下ハクノウエと梁上の
塚柱ツカハシラは切込十文字形の筋遠スビカヒを抄附する家之尤長家
建ダテより長サ十百二十百是ありとも此家小檜ナラ小檜ス教カ巻
所筋遠を抄附す

○九市中町並の家作長家等表裏とも必ヒ庇ヒサシあり
因ユて毛庇の瓦付方を熟察ジツサウする小何れも悉報畧之
江戸町並の習俗ナラハシより正戸オモヤの表柱オモテシラは切掛キツカケ筋一貫ヌギ
を横ヨコ小押付オシヅメ六寸行ヨクより抄附此大貫と庇ヒサシの枘ケタと小

垂木タルキを抄附一六寸行を以大貫と拵ケと一本宛抄
附垂木の引張イリよりせ庇のイワカタより何方も同根
職人ベキナスも亦たの通りベキナスに可為ベキナスものといふ居イるやうに猶イも
上小庇ウシヒより瓦ズキより葺格外ズキの重荷を掛ケりむるもあ
放ハ去卯十月二日夜の大地震小第一垂木掛の大
貫オモヤを引放オモヤし正戸オモヤと庇ヒサシと引張イリ筋サケ瓦の重荷を以て抄
潰ツブされ逃出ツブは戸口ツブより抄殺され或は往来より抄殺
きりの類ツブは入り札普請職人任ツブりて欲ツブを白

まふ手を抜甚多粗畧あるより起るまありて實に
 歎ホカし此次第と云云居居一因て此のどき大災を脱む
 とするふハ正戸オモヤの柱と庇の柱と小貫を差通し左
 の方の如く兩柱小貫とせんを折込正戸と庇を
 繋ツぎるむべし此貫をきりたり夫何程の費ツエありむ
 や聊の賃銀オシギン少く大災を脱る居し製造の法を
 以て考ふ居し

此木第四号一六寸許り大貫と折る七一本是也



太の身も正戸の柱と庇の柱と貫を差通し去ミ
 ぞんをお込庇のしんがる指ニ手強く繋ぎあたる
 身之もしく長サ十間二拾間の長屋建の庇ふくも
 間口二間或も三間の間より救ヶふ此繋ぐ時ハ
 如何ある劇烈の大地震大嵐竜巻ふても破壊崩墜
 の患決して有べし尤庇ふも筋道をきつておふ
 ぐ工夫しく切込お附べし

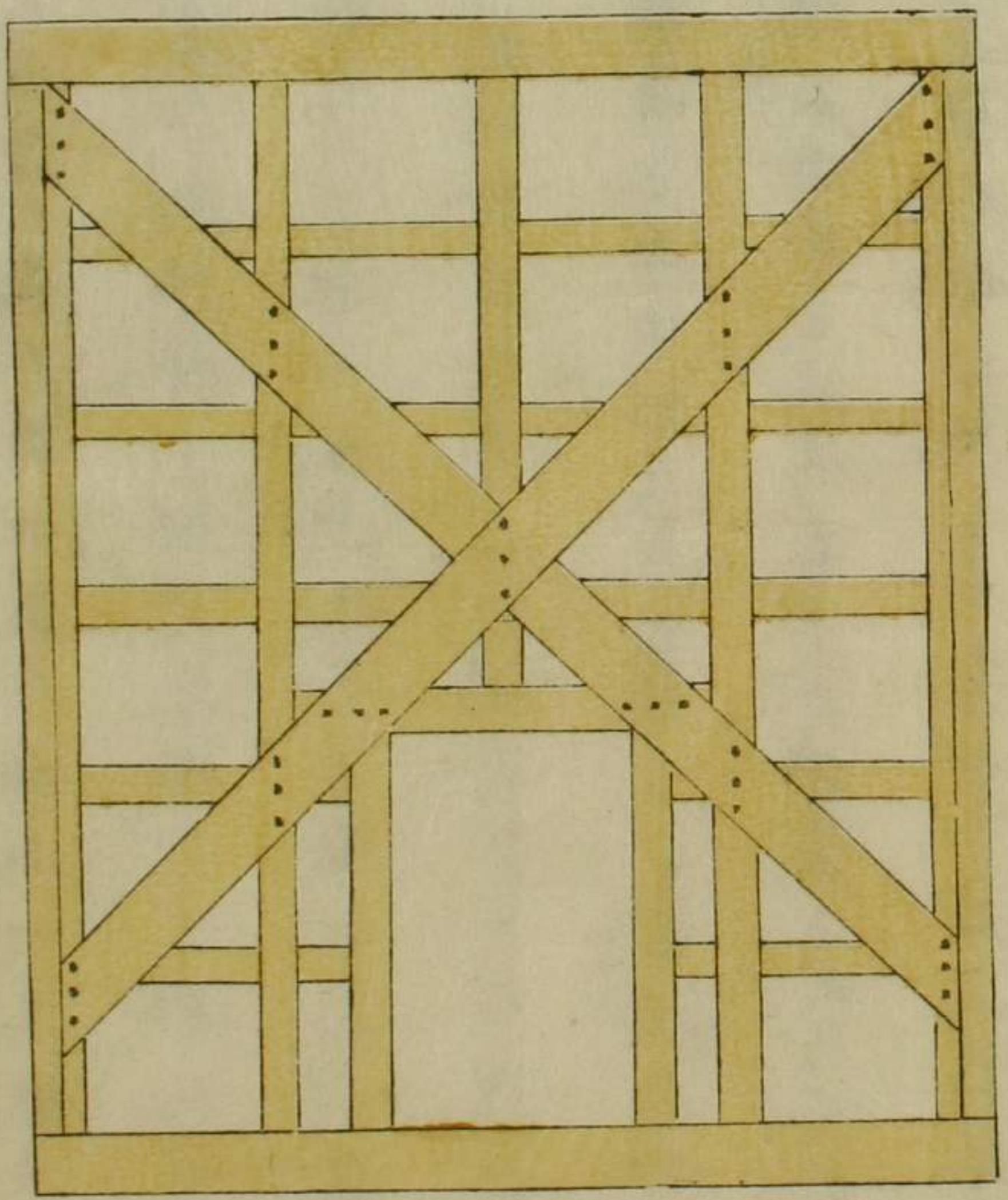
○元土蔵の建方も何方も同指六七寸角の筋性

よき大材を柱とあり内面の柱貫とも小絶をうけ
 壁も白土を事世の習俗之我々ども是唯虚美
 ありて地震火災の凌よる聊もあるべし益の
 費と云べし故ふ此の土蔵ハ去卯年の大地震後
 ハ悉く破壊し非老の爲り更ふ成羅一地震後
 の火災よる悉く類焼せし因て予が作法ハ柱等
 決して良材高價の爪を用ひ以節多の檜の悪木ふ
 て四五六角等の丸付を少し絶等を用ひけり用

かく外面小前の切うけも浅く唯四隅の柱斗を
スイシユ エ
 八寸角を用ひきども是亦新お斗りして籠をうけん
エウナウチ
 唯内面の角二寸程切うき去るべし尤き口密を
カチ
 小造らんとせれば大費小堪ん矢張入札普務なり
ツク タイヒ タエ ヤガ
モノイリ
 左の角の如く内面小筋遠十字形小おべし此筋
 遠より一尺角の檜木ヒノキ エ アラボク 厚サ一寸の板小
ヒキア テキギ ホトヨ ソクシラ
 挽割長短適宜小切り惣柱小深サ一寸宛切込
 小お返三百目以上の大行一柱小三本宛お返べし

其仕法左の如きを以て考ふべし

第五圖

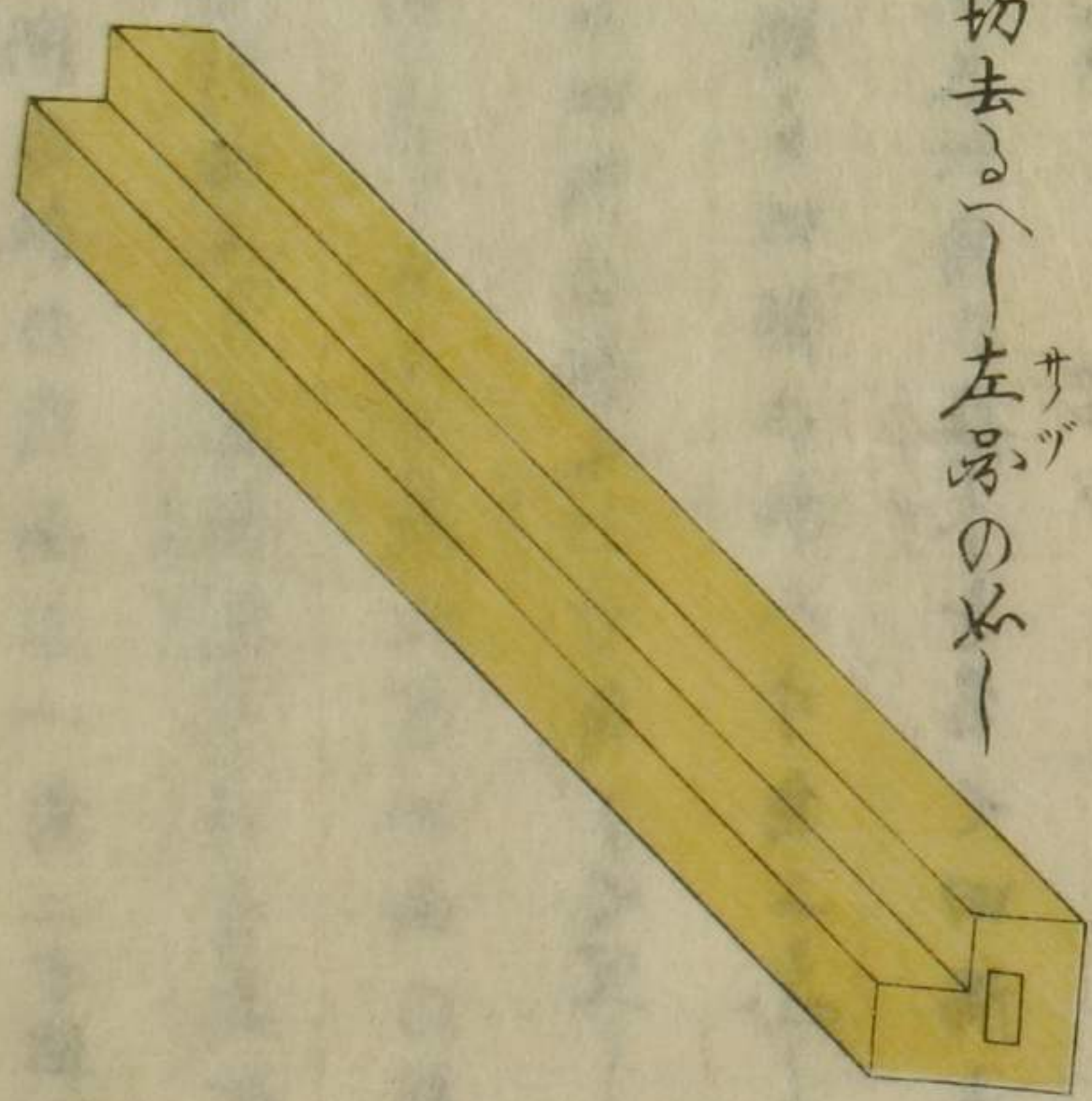


太の号も二号の土蔵戸前口の内面小一尺幅の板
 割りく筋遠を入柱毎小切込打付たる号之丸入
 札普積りく至く下座の鹿材悪木を柱とあり絶削
 ませぎれハ大工手留も多うう以然色とも内面四方大
 十字形の筋遠を号の如く打込時を骨柱の管を
 かりや大磐石の如く如何ある大地震少くも動揺せ
 ざるう故小毛壁毛髪も損むる事あり故小烈風大
 火も類焼の恐をあり予う親友此ふして去

卯年の大地震小土蔵を完全なるを見よ

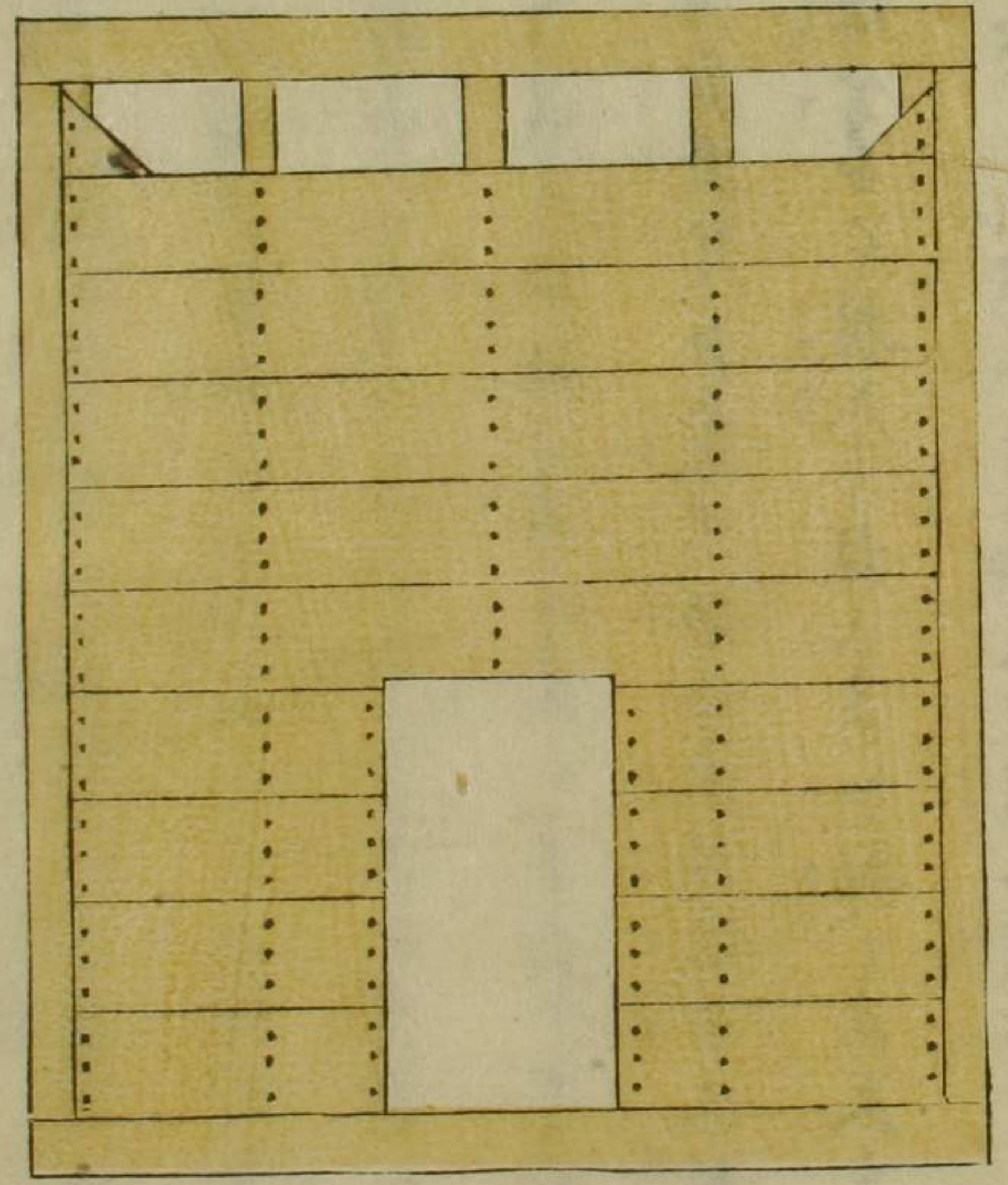
○予が製造法の土蔵ハ四隅の柱斗り八寸角を以て其
 内面の角二寸程切去るハ左号の如く

第六号



右号の如く四隅ヨスミの柱の内面の一角二寸迄切去る
 その切去る所の裏面に内面左右の板割イタリを向けて大折オシり
 抄附オシる小便利ありしめんが為タメに尤四面の柱小五
 寸角を用ゐる時も四隅の柱も七寸角より宜し四面の
 柱六寸角を用ゐる時も四隅の柱八寸角より尤四
 面の柱も四六款五六角の悪木アクボクを用ゐて四隅小八寸
 角を用ゐる時ハ下連ゲゼキより一ケケンをある處ゴへ

○第七号



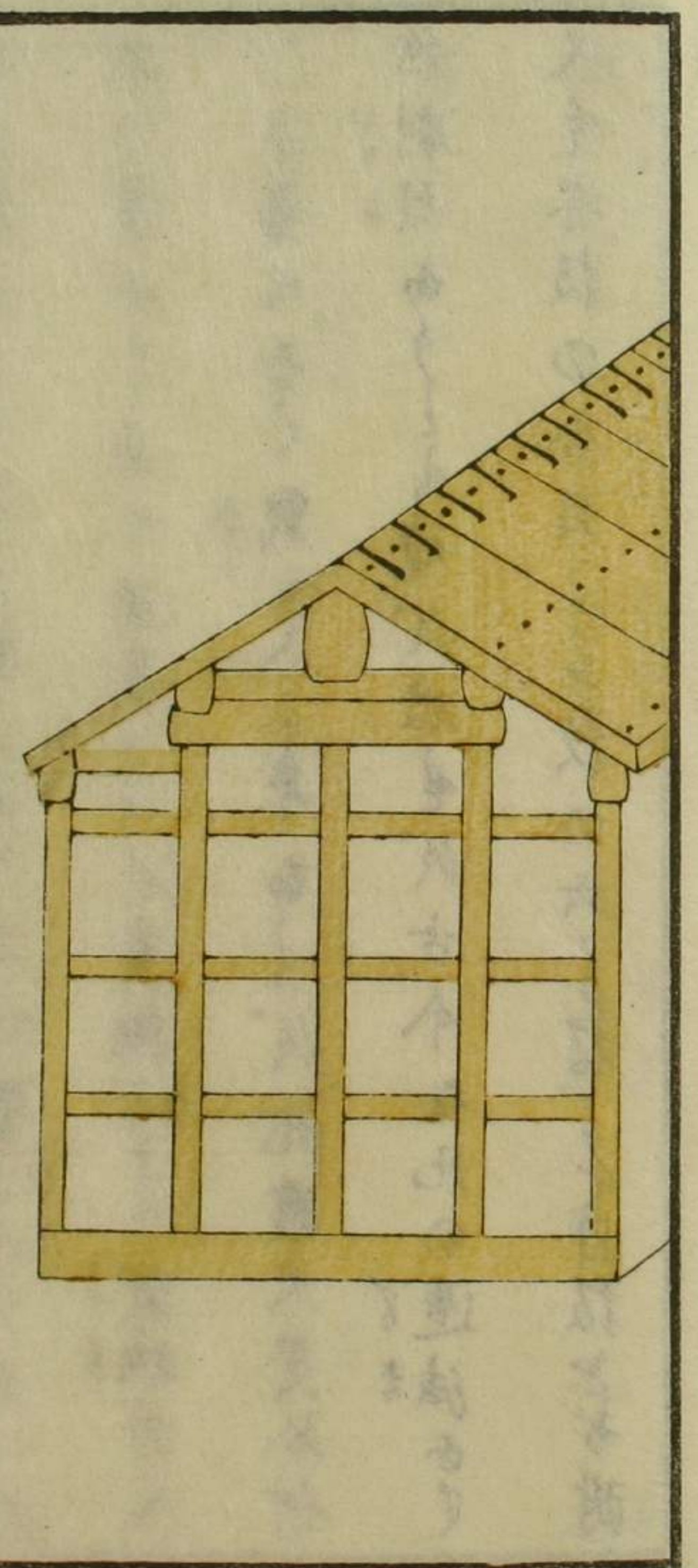
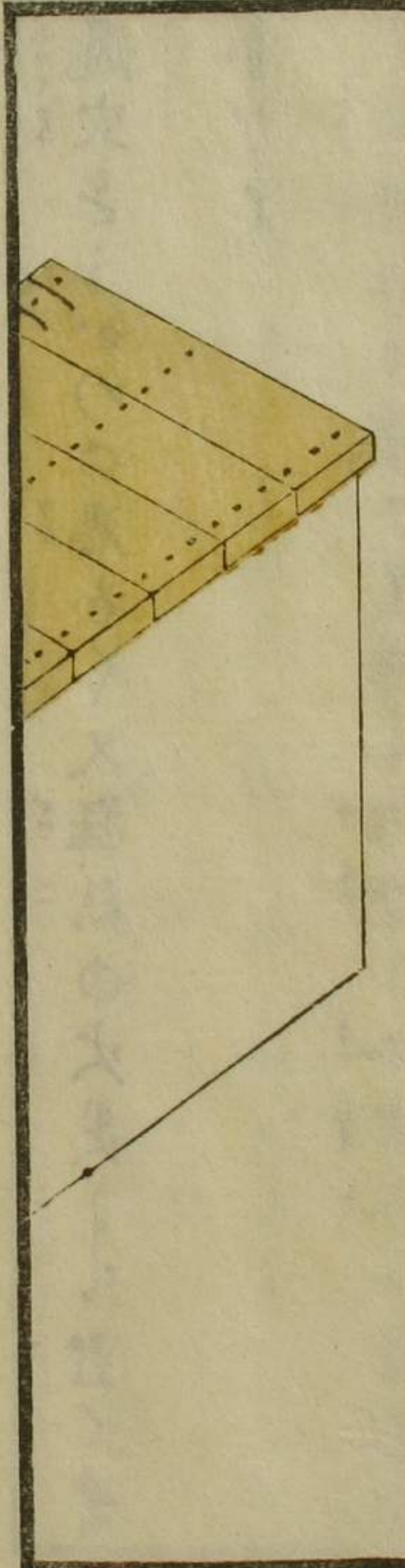
太夫ハ第五分の土務戸前口内面小十字取の筋
 遠をおるの小又厚一寸の板割を以て横小お附
 る為之此板割る表面を飽削し以て三百目の大釘
 を以て柱毎小二本お附桁下にて板割一枚文
 の処やり返しの板を小お付し此口より壁と板
 との間を砂染りた荒川砂の太陽晒日小乾し
 りの際をかく指入し板を小お付しと押し合
 せしを以てお付し小お付し時ハ米穀を積入し
 壁小

嵐穴をうがいの患おく又猛烈の火災を以て
 おけし

○通例の土務の屋根を地棟小合掌木を敷き
 けせ其上小棟桁もや垂木等減らた飽削し以て縦横
 小念入組建毛下地の小屋紐を手敷多く其上磨板
 を以て横小お附柿し土居葺を半何方も同
 振し職人作料の嵩を聊お減らし小お付し
 小益の雜費之予が工夫を益の費おく儉約

第一より格外堅固な製作を専要として板小
棟材合掌本^キもや垂木^キもハ一切是を用ひ松檜
本等の脊板^キの厚さを以て地棟^キと地^キの^キ杉^キ
^キ行^キの^キ大^キある^キを^キお^キ附^キる^キ半^キ左^キの^キ品^キの^キ如^キし

第八号



太^キ品^キの^キ如^キく^キ造^キら^キん^キと^キ欲^キせ^キる^キ先^キ板^キの^キ長^キサ^キ六^キ尺^キあ^キる^キバ
厚^キサ^キ二^キ寸^キ以^キ上^キと^キし^キ長^キサ^キ九^キ尺^キ向^キき^キ厚^キサ^キ三^キ寸^キ以^キ上^キと^キし^キ
餘^キり^キ是^キ小^キ准^キし^キ内^キ面^キの^キ板^キ割^キを^キ挽^キ割^キる^キ時^キ太^キの^キ心^キ如^キし

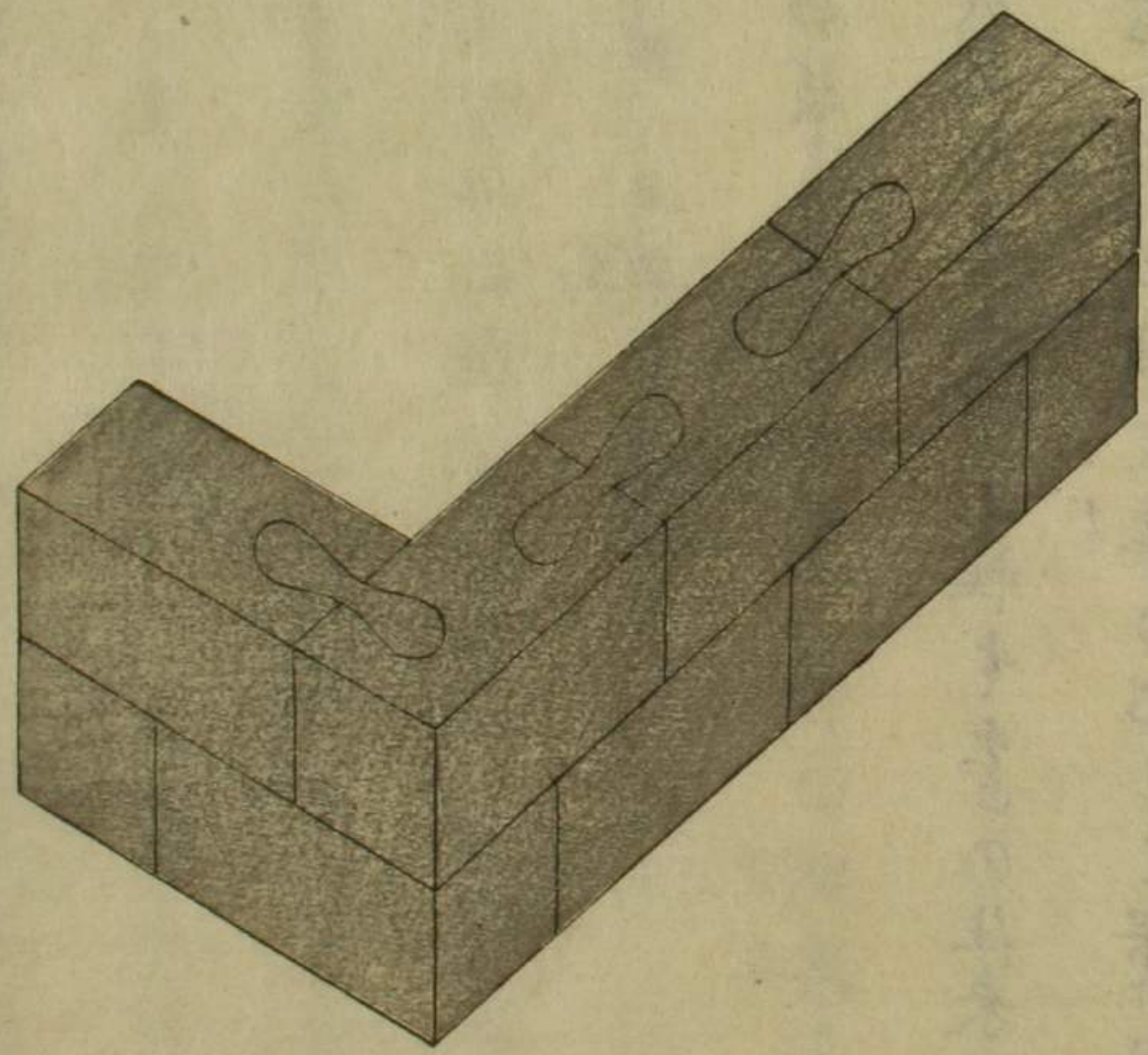
脊板を用意を以て裁いて其内面と合目を能削り合
 せ釘の適宜小大なるを以て地棟と地土りの板
 と中柱の梁とニテ承りて一ヶ不ニ本宛お附棟上前
 後の板の小口を大鋸二挺で打込繋ぐべし大工作
 料の費少くを以て密を以て屋根上より盜賊の入
 りを憂もかく鼠も入る事ありて地震火災如何
 惨劇烈ありとも焼く破れは古今無比の造法あり
 又脊板の合目より板の六分板より目板を打附

油石灰より一塗り塗を免て後通例の通り瓦を揚
 げ
 ○屋上瓦葺小葺元來火災を防ぐ為ニ其
 小葺棟の左太小大ある鬼板を附棟とさく紐上げ
 或は箱棟小葺もあつて蓋の虚美徒小外尼を筋
 のこめて地震火災より大小害あり頗瓦葺の本
 意を失ふ小至きも是より小葺を築く棟を高くせしがん
 ぶと為小葺の時へ外尼ありて小葺小葺重為かく地

震風火の患も亦く烈て害あるべしと云

○土臺ドタイの石尺角三重チウ五重ゴウ小総揚コウソウらりの去卯年の
 大地震小悉く崩クツたるを尼々ニニ且イシ石地イシヂ花石燈イシトウ
 石垣イシガキ悉く崩クツ倒タるを以て勘考カンカウする小土臺
 の石も餘り高タカき小コるる地チ震シムの為りカの世ヨにシて
 若し重オモし上ウ小コなきんニと欲ホシするニの悉くカ鋸ノコを用ヨりベし
 其法シヨウ左サを以てリ了ス知チてベし

○第九号



右等の如く二重三重の石を合セ目分銅形小穿ちを
 穴に鉛を溶一して差込冷固せしむべし其外の石垣も
 皆此法を参考して築きしむべし石燈籠石の
 鳥居等も臺石小切込鉛をておむ時ハ如何ある
 大地表より決して倒る患なし

○地形築礎の致し方より其土性の剛柔小よ
 各々一様ありば板小を其土性の仕来小にて
 築きしむべし尤も内土性至柔の地より深サ四五尺

も堀立捨土臺を投入し其上小角石を建大木を以て
 大勢より救日橋を免れしむ莫大の手救費のかる
 いおむ等の場亦を軽く築礎するは地形を二三
 尺堀穿ち其中石の切屑と油石灰の糟を交え
 投入し太一握の丸太様の抱りて長小橋を
 免猶少く宛投入して其橋を免れ救遍する時を至て
 手軽く投入費亦く其築きしむる事年を積小待て
 石の井桁の如く一巻しうすまで大盤石の如く

此仕法を俗に千本搦と唱へて素人業として手
輕き仕法也

○海濱或は大河の邊に大暴風竜巻大津浪
多し居宅を吹潰し屋根を枡上より吹くは或
ハ土臺と柱と引放され破壊するに至り大津浪の
甚し勿論土倉と柱と屋根と各別をくもける半
あり又家宅潰れぬれぬ死にせまじくは小屋舎破
壊するが故に二階屋上より凌ぐべき枡も各逐に
壊

死に及ぶ歎くを車ども尤居宅を地震豫防の
法に製造する時を潰れる松の車に決してをへるは
とも建地を土臺の上に乗て短少の不足を入る屋上の
地どりの枡上に乗る斗をへ大津浪大暴風を
ありし時を必に放さざるありては故に大津浪
大暴風竜巻の恐るる郷里少くも大艦を以て土
倉と柱とを内外より各二本柱毎に都合四本宛
嚴重にお附繋ぎ又柱と枡と屋根具と皆悉く

大堤を以て繋ぎ留る時々大暴風竜巻の災害を
免れ令大津浪より大船場以上を根上まで至ら
ざる時ハ溺死を免るに至るべし

○凡大津浪の恐ある海濱おどし便利ふより家
作して住居せんと欲せむ前々其家の津浪の言ハ
を問糺し土石を集免地形を平地も四五尺或ハ六
七尺も高くせしむ土石を積の始小家の留敷を積
て四隅小高るを長サ三尺の尺石を居四隅とも小

石ト極太の洞線長サ一丈半小切るを凡十本宛か
付保ち留る洞線を建て地上小引出し築礎し土
臺を居る時四隅とも土臺小かゝる取と保ち留る
居し是亦手輕しして費少く如何ある大津浪小
ても家の流を動き出の患なく且大暴風竜巻
小も留るあるべし尤家の大小小高洞線の増減も
察し
此條ハ尚辰年八月廿五日夜の大暴風津
浪より深川海邊を破村焼燬邊の荒涼を以

○大暴風竜巻等の甚き必以雨戸を吹たぐし或ハ
 吹破りて屋根裏小風を色ツ屋舎大小とも空中ハ
 吹揚吹落フキひが放ツブ小流ヤケを吹落人等多く出来カ
 元來何方の家居も敷居鴨居の溝ミの深フ僅ワ小曲尺
 二三分の餘ト戸淵トも僅一寸角ワふと以二階上下
 皮同様ア危ドき車モ勿チ論ロ之レを吹キおシせんト欲セバ
 雨戸アの上下一尺ド越ヘのレをシて戸ノ開キの便利ベを見テ
 二ヶ所ニ横ヨふス也ヲをシて戸ノ開キをシてハ尤モ平日ノ下ノ

ませ斗り月ツキひテ夜中ノ出入ノのレ甚キとシてハ踏ミぎコ越エて用ヲを長
 へハ平日ノとも上下ノのレをシて用ヲする時ニは盗賊トウゾクも入ル車
 叶カナもハ大風竜巻ノも至ルて窓マを吹たりて家ノを吹流スき
 之ノ恐オありテ危キうクもシむト是レ昔ノ豫ヨ防ボウ法ホウ平生ノ能ク熟シ思シ以
 〇大津浪ノのレ甚キハ場所ノよリ大船大材木等ノ漂タひ来て
 窓マのレ家ノ瓦ヲも推倒オシタホさリ車ヲも放ス津浪ノのレ可キ濱ハマ里サト
 其レ處ノ建方タテ別ゲして堅牢ケンロウ小造コゾウるべシ且津浪ノのレ来ルべき

方角小於^{ヤキ}柳を一^ア百^ワ宛の間小^{ウエ}植付^{フケ}毎年^{コトク}悉く枝を切
 捨^クニ丈餘の^サ方^ク二尺^ニより^ハもある時^ト大木^{ヘウ}漂^タ邊^ノ
 患^ガを脱^ガふ^ハ追^ツ年^チ生長^シて^ハ二尺^ニより^ハ上^トも
 あり^ハ何^ニカ^ハ大^ニ私^ニ流^スを^ハ来^ルとも^ハ決^シて^ハ推^シ倒^スさ^ス
 年^ハあり^ハべ^シく^ハ諸^ノ木^ノ中^ニ生長^シの^ハも^ハさ^シの^ハ柳^ノ木^ハ小
 き^ハり^ハ扱^カり^ハ宜^シく^ハ是^レを^ハ植^クて^ハ大^ニ災^ヲを^ハ避^クべ^シの^ハと

附錄 畢

○東壑翁著述目錄

防火策圖解 上下附録合二冊

此書ハ火災ヲ防クノ一奇書ニイカレ烈風猛火タリ厄翁ガ工夫ノ防具ヲ以テ
 速ニ遮リ止メテ數万家類焼ノ大災ヲ免シムル先賢未^タ發ノ一奇術也附録ニハ
 大地震大津浪大アラシ竜卷等ノ災害豫防ノ術ヲ記ノ都鄙濱海ニ至ル迄水地震
 風ノ危難ヲ脱シメントス元ヨリ祈禱呪ヒ等ノ如キ怪シキ空論ニ非ス其法術悉ク
 圖解ニノ婦女子ニモ^テ易ク實ニ國益廣大古今無比ノ一奇書トスベシ

激水灌丘術圖解 全

此書モ亦先賢未^タ發ノ一奇術ニノ聊カ人カラカラスノ最下低卑ノ汗池止水ヲ激動
 ノ三丈五丈乃至十丈二十丈ノ丘陵ニ登ラシメテ田畑ヲ潤シ旱損ノ患ヲ脱レ農夫
 安堵セシムルノ一奇書也實ニ踏車水車ヲ用ヒスノ更ニ渴水ノ患ナシ是亦國益至要ノ書也

衝風飛船圖解 全

此書モ亦先賢未業ノ一術ニノ翁カ年来工夫發明スルルノ奇也尤用費微少ニ
其妙用便利ナル古今無比ノ珍器トスタトエハ四隅八方頃逆左右何レノ風モ去嫌ナク海上
往返縦横自在ナリシカノミナラス風ニ逆テ飛走スルハ殊ニ迅速ニ蒸氣船ニ劣ラス故ニ
衝風飛船ト名ク此器ヲ千石積以下ノ船ニ仕掛諸荷物運輸ニ用ルハ即日千里ヲ
到着シ諸港風待滯留ノ費ヲ省キ船中ノ雜費至少ニ且難船荷打遠着等ノ患ク
異國ニ漂流ノ怪我モトク外夷送り来テ 御國禁ヲ犯ス手掛リモナキニ至ルベシ是亦
國益ノ一助ト云ツヘキ一奇書也

察病捷徑

三卷

凡ソ山家邊鄙ニテ眼科ト唱ル者ノ治法ヲ察スルニ其家秘ト稱スル所點劑丸藥末
藥等僅ニ三法ニ過スノ病症ノ異同ハニ拘ラス悉ク同劑ヲ以テ治セントス故ニ病重キ症
ハ遂ニ不治ノ廢人トナル者アリ實ニ歎息ニ堪ス抑眼疾ノ諸症内外諸病ニ因スル者多シ
其原病ヲ攻ルニ非レハ寸功ヲ得サルアリ然レモ内外諸科ニ涉テ悉ク練磨セント欲スル
ハ其費少カラス或ハカノ是ザレテ恐ル今此書ハ翁カ先師ヨリ受傳ル口授秘藏ノ術ニ
眼病ハ勿論内外婦兒ノ諸症疑似類病併病等見定メ難キ病症ニ至ル迄悉ク弁別シテ
素人ニテモ速ニ觀察ノ的當ノ方劑ヲ處スル自由ナル一奇書也元ヨリ博學國千方ノ

覽ニ具フベキニ非ス只彼ノ邊鄙師ニ之キ醫士或ハ醫ニ不自由ナル海濱山家ノ邊邑ニ
病症モ知ラヌ素人方ノ不當ノ賣藥トテ不治ニ至レトスレテ救ハ方為ニ是ヲ家ニ秘セス編
ク世ニ弘ムト云フ

多年試驗 方位吉凶早見 全

凡ソ本命的殺都天五黃金神三煞大將軍鬼門等ノ大凶方ヲ侵スキハ難病死絶災害
並至ト云フ其言虚ナラス故ニ吉方ヲ撰ヒ用ヒトスレハ三五年モ凶然一方ニ打續キ欲ス
ル処ノ方位ヲ得ルヲ能ハス此書ハ翁カ多年試驗ノ災害ヲ有無ヲ弁別シ凶方ヲトモ
犯シ用テ聊其崇リヲ受ザル術アツテ年々月々差支エナキヲ發明シ無益ヲ省キ實
用ノ記シ詳ニ方位ノ吉凶ヲ喻メ諸人ニ幸福ヲ得セシメトス實ニ吉凶早分リノ一奇書也

福善寶錄

全

此書ハ近世ノ事實ニ人ノ危難九死難病等ヲ救ヒ助ケテ其陽報歷然ニ来リシ事又
陰惡ヲ去リ其崇ノ早キ事等ノ實事ヲ輯録セリ尤平ガテ婦女子ニモ讀ヤク面阜書也

浮世問答

三卷

此書濱海御備ノ仕法水陸戦法ノ可否武術訓練ノ得失ニ至ル迄スヘテ當今諸兵家ノ
問答先輩未發ノ高論ノ撰ヒ輯メテ彼我ノ強弱虚實ヲ了知シ我カ
神國ノ武威ヲ以テ地球ノ大敵ニ對シ必勝ノ利アルヲ明ニシ人々生質微妙ノ英ヲ引
起シ百戰百勝ノ奇策妙計各其方寸ニ涌出セシムルニ至ルノ書也

水戰要略

全

此書ハ 皇國海岸御備ノ仕法殊ニ大坂ハ帝都ニ近ク浦賀ハ江戸ニ近シ何レモ緊
要ノ地ニハ必勝ノ備ヲ設ケ夷賊數千ノ軍艦或ハ大坂港ニ押ヨセ或ハ房相兩岸ノ内ニ
來入タラシハハマタク間ニ皆殺シニスルノ兵術ヲ記シ又ハ地球萬國ノ夷賊等一時ニ
押來リ 皇國ヲ圍繞シ攻ル所ヲ以テ大ヲ討チ百戰百勝スル水戰必勝ノ要訣ヲ記ス

陸戰要略

全

此書ハ海外ノ夷賊我ヲ侮リ押テ上陸シ大小ノ砲銃ボレン毒烟柘榴彈蒲萄彈
等ノ利器ヲ以テ打スクトスル劇勢ノ賊兵ニ對シ防禦スルノ術ヲ記ス尤古代軍法ノ
陳迹ニ固泥セス又當時流行ノ西洋流ニモ倣ハス只 皇國ノ弓馬劍槍修練ノ強キヲ共ク
活用妙施ノ小ヲ以テ大ヲ撃チ百戰百勝ノ術ヲ記ス以上三書ハ翁カ古今未發ニ秘書也ト云フ

○家傳妙菜 多年治療ノ功ニ試飲ノ神効アリ
此菜ハ 古方ニ倣ヒテ試飲ノ神効アリ

明目菜 一包代但 古今ニ在リテ二の奇方ニシテモるるのがんがんと
一貼テ神効アリ 本草ノ妙菜也

發泡膏 一貼七十二銅但 小兒頭瘡たぐ根をえり泡瘡たぐ
一貼テ生溼を去リ病瘡全の妙菜也

食傷丸 一包七十一銅但 大酒不食成るるの毒をけり感ハ
霍乱腹痛死せんを去リ神効アリ

千里飛行煉 一貝代但 道中ニてもあつて及んでおれぬをり
一貼テ股引をりたりと妙菜也

痔痛の妙菜 一貝代但 痔の瘡をいり痔をきりしそく
一貼テ痔をいり痔をきりしそく妙菜也

此書ハ 皇國海岸御備ノ仕法殊ニ大坂ハ帝都ニ近ク浦賀ハ江戸ニ近シ何レモ緊
要ノ地ニハ必勝ノ備ヲ設ケ夷賊數千ノ軍艦或ハ大坂港ニ押ヨセ或ハ房相兩岸ノ内ニ
來入タラシハハマタク間ニ皆殺シニスルノ兵術ヲ記シ又ハ地球萬國ノ夷賊等一時ニ
押來リ 皇國ヲ圍繞シ攻ル所ヲ以テ大ヲ討チ百戰百勝スル水戰必勝ノ要訣ヲ記ス

火傷の妙薬 一包代但 すぐさま火痛とさうらうを治す

凡そ火傷の熱湯焚火焙後火薬等より固く洗淨大小種々の

甚多しその分を合はせりて惣の如く湯水とて洗或

胡瓜多しの水椽の志等とせりて痛みの火痛とせりて

さき迄逐々火毒内攻して死せぬと云ふ事ありき

何り又之の粉薬とせりてせりては其の如く

そめれりて薬のはけりては膿汁見るとは

いつてそりては多しとせりて故に世に

の急難と云ふは此の如し

腎囊風の妙薬 一貝代但 数十年來

凡の凡を治すは其の如く陰囊を治すは其の如く

小浅の如く大小一様なりて是れを治すは其の如く

陰囊の如く四肢背腹頸面等も治すは其の如く

なつてそりては多しとせりて故に世に

科正家に腎囊風と云はれんは其の如く

たけりては多しとせりて故に世に

死すも多し其の如く一症を治すは其の如く

敷接ぎも変化して皮膚病とせりては其の如く

容易に治すも多し其の如く

多年治癒せぬ症も其の如く

とせりては多し其の如く

とせりては多し其の如く

とせりては多し其の如く

脾脈の妙薬 一貝主銅 但 雙の沖等のけられん降と朝人神傳と
はがれぬ死かしてそそきこゆ法をの妙薬

陳風の妙薬 一也代銅 但 その中よりかたにさうりまをのいふて
のち三年に再発ありけり此薬治癒也

凡そこの妙薬をききし耳鼻の黒世業のちりりし鼻の皮
やぶれだれて年々そそてゆゆれものゆゆれ故に老をせよ薬なりと
いふやうに人より然る世業毎を治癒に不余といふやう劇症
治癒すそのやうも効用てきよ

痲疹 毎朝九時かぎり
翌後ハ他出いふ

同休日 毎月廿日十有二十日
廿の二日朝より他出

東都浅草度小路
望少橋の遠野
眼科 鐘川堂製

輕痘丸 一包二角半銅 但 痘瘡子公の兒より用れ痘毒を
半包真土銅 ぬき去る痘を瘡くも後合の妙薬

凡そこの痘毒の治すもの必難痘を瘡くも後合の良薬也
とわりのやうに治すれども又世に治すもの一家に死を
そとの世に死すも死すも死すも死すも死すものか
そのハ世に死すも死すも死すも死すも死すものか
痘瘡の治すて次兒の難痘は死すも死すも死すものか
醫者より治すも死すも死すも死すも死すものか
すり千金のわが死すも死すも死すも死すも死すものか
一男鬼治すも死すも死すも死すも死すものか
うそこの丸薬の主治は痘毒退除の一奇薬なり世に死すも死すものか
試せよその効用は月々一十七日冒其の頭面を赤疹を瘡す

